

平成28年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	徳島県		市町村類型	II-1	指定団体等の指定状況		区分		平成28年度(千円)	平成27年度(千円)	区分		平成28年度(千円・%)	平成27年度(千円・%)	
					財政健全化等	×	歳入総額	37,260,428			34,282,716	実質収支比率			0.7
市町村名	阿南市		地方交付税種地	1-2	財源超過	×	歳出総額	35,635,724	33,180,297	経常収支比率	91.7	88.3	(94.9)	(89.7)	
					首都	×	歳入歳出差引	1,624,704	1,102,419	(※1)					
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	1,482,158	639,843	標準財政規模	20,137,232	20,543,586			
					中部	×	実質収支	142,546	462,576	財政力指数	0.88	0.89			
人口	27年国調(人)	73,019	産業構造(※5)		過疎	×	単年度収支	-320,030	-297,871	公債費負担比率	13.4	13.3			
	22年国調(人)	76,063			山振	×	積立金	320,078	526,581	健全化判断比率					
	増減率(%)	-4.0			低開発	×	繰上償還金	-	-	実質赤字比率	-	-			
住民基本台帳人口(※7)	29.01.01(人)	74,951	第1次	27年国調	3,213	22年国調	3,156	指数表選定	○	積立金取崩し額	1,830,000	300,000	連結実質赤字比率	-	-
	うち日本人(人)	74,607		9.8	9.8			実質単年度収支	-1,829,952	-71,290	実質公債費比率	5.1	5.7		
	28.01.01(人)	75,653	第2次	9,902	9,719			基準財政収入額	12,263,830	12,803,473	資金不足比率(※4)				
	うち日本人(人)	75,332		30.4	30.3			基準財政需要額	14,165,321	14,339,305					
	増減率(%)	-0.9	第3次	19,510	19,187			標準税収入額等	15,875,620	16,536,783					
	うち日本人(%)	-1.0		59.8	59.8			経常経費充当一般財源等	17,678,392	17,526,299					
	面積(km ²)	279.25						歳入一般財源等	22,647,010	22,232,952					
人口密度(人/km ²)	261														
世帯数(世帯)	27,193														
職員の状況															
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	34,694,924	33,766,336				
	市区町村長	1	9,090	一般職員		785	2,372,270	3,022	うち公的資金	28,174,947	27,574,445				
	副市区町村長	2	7,240	うち消防職員		109	294,518	2,702	債務負担行為額(支出予定額)	13,617,069	14,548,973				
	教育長	1	6,520	うち技能労務職員		103	321,875	3,125	収益事業収入	-	-				
	議会議長	1	4,820	教育公務員		30	75,360	2,512	土地開発基金現在高	466,000	466,000				
	議会副議長	1	4,280	臨時職員		-	-	-	財政調整基金	12,428,148	13,938,070				
	議会議員	26	3,990	合計		815	2,447,630	3,003	積立金現在高	3,598,108	3,591,274				
					ラスパイレシ指数			98.5	減債基金	4,373,234	6,543,694				
									その他特定目的基金						
一般会計等の一覧															
項番	会計名	事業会計の一覧			公営企業(法通)の一覧			公営企業(法非通)の一覧			関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧		
(1)	一般会計	(9)	国民健康保険事業会計	(14)	阿南市水道事業会計	(15)	公共下水道事業会計	(17)	老人ホーム福寿荘組合	(23)	阿南市土地開発公社	(※3)			
(2)	住宅新築資金等貸付事業会計	(10)	加茂谷診療所事業会計	(16)	羽ノ浦農業集落排水事業会計	(18)	那賀川北岸地域湛水防除施設組合	(24)	株式会社コートベール徳島						
(3)	伊島地区生活排水処理事業会計	(11)	伊島診療所事業会計	(19)	徳島県市町村総合事務組合(一般会計)										
(4)	学校給食事業会計	(12)	介護保険事業会計	(20)	徳島県市町村総合事務組合(徳島滞納整理機構特別会計)										
(5)	奨学資金貸付事業会計	(13)	後期高齢者医療会計	(21)	徳島県後期高齢者医療広域連合(一般会計)										
(6)	春日野地域下水道事業会計	(22)	徳島県後期高齢者広域連合(後期高齢者医療特別会計)												
(7)	豊香野地区生活排水処理事業会計														
(8)	西春日野生活排水処理事業会計														

(注釈) ※1: 経常収支比率の()内の数値は、「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3: 地方公共団体が損失補償等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※7: 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入金額	構成比	超過課税分
地方税	13,420,998	36.0	13,420,998	72.0	普通税	13,420,998	100.0	271,241
地方譲与税	312,039	0.8	312,039	1.7	法定普通税	13,420,998	100.0	271,241
利子割交付金	8,582	0.0	8,582	0.0	市町村民税	4,711,530	35.1	271,241
配当割交付金	62,087	0.2	62,087	0.3	個人均等割	119,413	0.9	-
株式等譲渡所得割交付金	38,489	0.1	38,489	0.2	所得割	3,189,288	23.8	-
地方消費税交付金	1,283,324	3.4	1,283,324	6.9	法人均等割	205,897	1.5	34,189
ゴルフ場利用税交付金	25,228	0.1	25,228	0.1	法人税割	1,196,932	8.9	237,052
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	7,965,896	59.4	-
自動車取得税交付金	41,010	0.1	41,010	0.2	うち純固定資産税	7,929,187	59.1	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	233,280	1.7	-
地方特例交付金	29,047	0.1	29,047	0.2	市町村たばこ税	510,205	3.8	-
地方交付税	4,138,375	11.1	3,371,530	18.1	釧産税	87	0.0	-
普通交付税	3,371,530	9.0	3,371,530	18.1	特別土地保有税	-	-	-
特別交付税	766,845	2.1	-	-	法定外普通税	-	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-	目的税	-	-	-
(一般財源計)	19,359,179	52.0	18,592,334	99.8	法定目的税	-	-	-
交通安全対策特別交付金	7,164	0.0	7,164	0.0	入湯税	-	-	-
分担金・負担金	146,242	0.4	-	-	事業所税	-	-	-
使用料	707,557	1.9	31,657	0.2	都市計画税	-	-	-
手数料	97,407	0.3	-	-	水利地益税等	-	-	-
国庫支出金	4,580,441	12.3	-	-	法定外目的税	-	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	825	0.0	825	0.0	旧法による税	-	-	-
都道府県支出金	2,216,850	5.9	-	-	合計	13,420,998	100.0	271,241
財産収入	63,194	0.2	3,053	0.0				
寄附金	7,071	0.0	-	-				
繰入金	4,075,103	10.9	-	-				
繰越金	1,102,419	3.0	-	-				
諸収入	1,151,876	3.1	1,198	0.0				
地方債	3,745,100	10.1	-	-				
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-				
うち臨時財政対策債	643,000	1.7	-	-				
歳入合計	37,260,428	100.0	18,636,231	100.0				

区分		平成28年度		平成27年度	
徴収率	現・計	99.0	94.3	99.0	94.3
(%)	年	99.2	95.2	99.2	95.4
		99.0	93.6	98.9	93.3

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	3,656,273	実質収支	254,254
下水道	478,351	再差引収支	163,503
上水道	35,576	加入世帯数(世帯)	9,698
簡易水道	11,156	被保険者数(人)	15,915
工業用水道	-	被保険者	95
国民健康保険	625,534	1人当り	129
その他	2,505,656	保険税(料)収入額	338
		国庫支出金	
		保険給付費	

歳出の状況(単位:千円・%)					
目的別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	289,160	0.8	-	289,160	
総務費	7,158,064	20.1	3,888,153	3,149,843	
民生費	12,770,428	35.8	752,515	6,249,443	
衛生費	3,209,564	9.0	380,786	2,758,337	
労働費	36,569	0.1	-	30,239	
農林水産業費	1,023,618	2.9	222,992	610,432	
商工費	253,786	0.7	14,293	215,437	
土木費	3,259,771	9.1	1,606,121	1,377,666	
消防費	1,117,982	3.1	183,805	911,411	
教育費	3,350,832	9.4	313,250	2,733,792	
災害復旧費	14,684	0.0	-	191	
公債費	3,151,266	8.8	-	3,031,760	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	35,635,724	100.0	7,361,915	21,357,711	

性質別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	16,213,702	45.5	11,301,577	11,011,545	57.1
人件費	7,001,392	19.6	6,607,195	6,453,321	33.5
うち職員給	4,591,684	12.9	4,294,776	-	-
扶助費	6,061,044	17.0	1,662,622	1,526,464	7.9
公債費	3,151,266	8.8	3,031,760	3,031,760	15.7
元利償還金	3,151,266	8.8	3,031,760	3,031,760	15.7
内 うち元金	2,816,512	7.9	2,714,022	2,714,022	14.1
訳 うち利子	334,754	0.9	317,738	317,738	1.6
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	12,045,423	33.8	8,808,221	6,666,847	34.6
物件費	5,184,443	14.5	4,051,174	3,041,139	15.8
維持補修費	228,139	0.6	163,956	163,956	0.9
補助費等	2,074,179	5.8	1,221,540	689,765	3.6
うち一部事務組合負担金	140,943	0.4	119,725	115,032	0.6
繰出金	3,609,541	10.1	3,060,188	2,771,987	14.4
積立金	348,681	1.0	303,515	-	-
投資・出資金・貸付金	600,440	1.7	7,848	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	7,376,599	20.7	1,247,913	-	-
うち人件費	85,763	0.2	85,763	-	-
普通建設事業費	7,361,915	20.7	1,247,722	-	-
うち補助	1,359,332	3.8	189,966	-	-
うち単独	5,956,991	16.7	1,050,801	-	-
災害復旧事業費	14,684	0.0	191	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	35,635,724	100.0	21,357,711	-	-

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

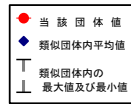
(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	36,809	35,214	1,595	113	4,068	34,690	
2 住宅新築資金等貸付事業会計	7	6	1	1	0	5	
3 伊島地区生活排水処理事業会計	11	6	5	5	-	-	
4 学校給食事業会計	371	367	4	4	3	-	
5 奨学資金貸付事業会計	10	10	-	-	8	-	
6 春日野地域下水道事業会計	48	36	12	12	7	-	
7 豊香野地区生活排水処理事業会計	7	5	2	2	-	-	
8 西春日野生活排水処理事業会計	12	5	7	7	-	-	
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							

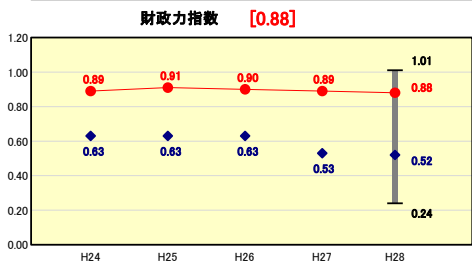
(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	74,951	人(H29.1.1現在)	実 質 赤 字 比 率	-	%
うち日本人	74,607	人(H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	279.25	km ²	実 質 公 債 費 比 率	5.1	%
歳入総額	37,260,428	千円	得 来 負 担 比 率	-	%
歳出総額	35,635,724	千円	市 町 村 類 型	H24 II-1 H25 II-1 H26 II-1	
実 質 収 支	142,546	千円	(年 度 毎)	H27 II-1 H28 II-1	
標準財政規模	20,137,232	千円			
地方債現在高	34,694,924	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成28年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

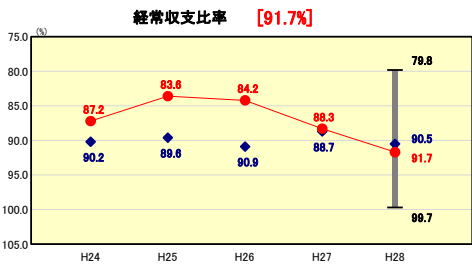
財政力



財政力指数の分析欄

平成20年度から財源不足団体となっており、平成28年度の財政力指数は前年度に比べ0.01ポイント悪化した。主な原因として法人市民税で中国経済の減速や為替レートの変動等により市内大手企業の業績が悪化し大幅な減収となったものと分析している。

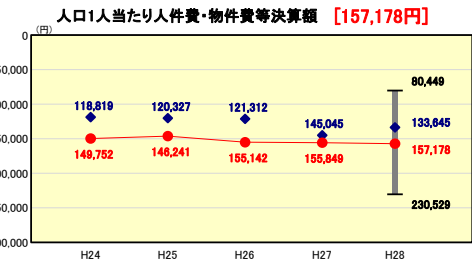
財政構造の弾力性



経常収支比率の分析欄

平成28年度の経常収支比率は91.7%と前年度より3.4ポイント悪化した。歳入面では、法人市民税で大幅な減収がみられ、歳出面では、平成25年度のごみ処理施設建設事業において発行した地方債の元金償還が始まり公債費が増加したためと分析している。人件費においては、類似団体内の順位が極めて悪いことから、業務の抜本的見直しの下、改善が必要と考える。また、平成28年度以降、合併算定替段階の縮減期間に入っていることから、経常一般財源収入の先行きに不安要素も多く行財政改革による経常経費の削減と自主財源の更なる確保に努めなければならない。

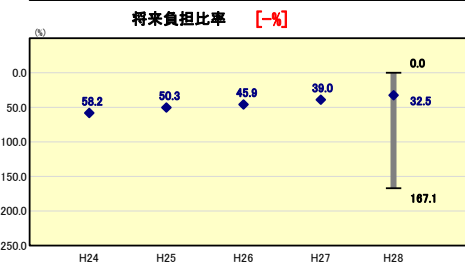
人件費・物件費等の状況



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

人件費、物件費及び維持補修費の人口1人あたり決算額は、前年度より1,329円増となり、全国、県平均と比べ高くなっており、類似団体内の順位も極めて悪い。主な要因として、人件費でごみ収集業務を直営で行っているほか、保育所や学校給食等の民間委託が進んでいないためである。また、合併後の課題でもある類似公共施設の統廃合等が進んでおらず、老朽化による維持管理コストが増加している。今後は、公共施設等総合管理計画に基づき、全庁的に統廃合議論を活性化させるとともに、トップランナー方式で示された民間委託・指定管理者制度導入を検討し、管理コストの削減を図り、効率的な行財政運営に努める必要がある。

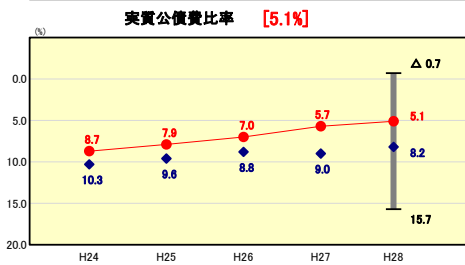
将来負担の状況



将来負担比率の分析欄

充当可能財源等が将来負担額を上回っているため将来負担比率の値は生じていない。主な要因としては、財政調整基金をはじめとする充当可能基金が約209億円にのぼるほか、交付税措置の高い合併特例債を最優先に発行していることから、将来負担額が抑えられていると分析している。分母となる市税収入等では、立地企業の業績に大きな影響を受ける税収構造であることから、財源不足を安易に基金からの繰入金で賄うことのないよう日頃より徴収強化を図り、慎重な基金運用に努めるとともに将来負担の増加の原因となる、市債発行を財源とする投資事業については、採択過程において厳しく精査するなど堅実な財政運営に努める必要がある。

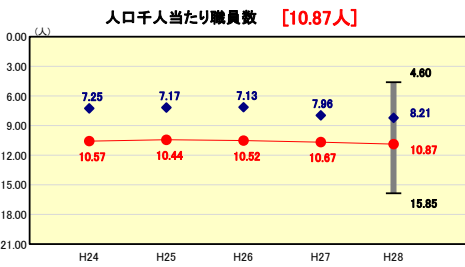
公債費負担の状況



実質公債費比率の分析欄

新市まちづくり計画期間中であり、大型事業の進行中であるが、事業採択過程における厳しい事業費の精査や合併特例債の活用を優先するなど、交付税措置率の高い市債発行を行ってきたことなどから全国平均を下回る5.1%となり、類似団体平均を3.1ポイント下回った。今後は、合併特例債の発行枠も減少していくため、不要不急の事業を精査するとともに政策効果の高いものを採択し、市債発行を抑制するとともに発行に当たっては、交付税措置の手厚いものを取捨選択し、実質的な負担が増加しないよう努める必要がある。

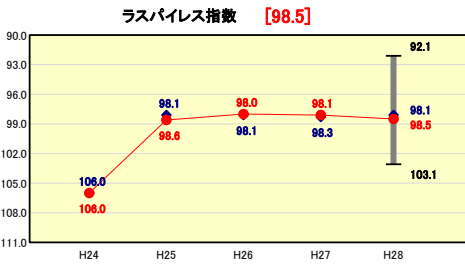
定員管理の状況



人口千人当たり職員数の分析欄

行財政改革の進捗により、定員管理計画を上回る職員数の減員が進んでいるが、市町合併により、広大な行政面積を有し、保育所や学校教育施設等も多いことから、住民サービスの維持に配慮しつつ、事務事業の変化を見通しながら適切な定員管理を行っていくことが重要である。

給与水準 (国との比較)



ラスパイレズ指数の分析欄

給料表上の引上げ率の相違等により、前年度比で0.4ポイント増加したが、引き続き全国市平均以下の状況にあり、今後も給料水準の適正化に努める必要がある。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成28年度

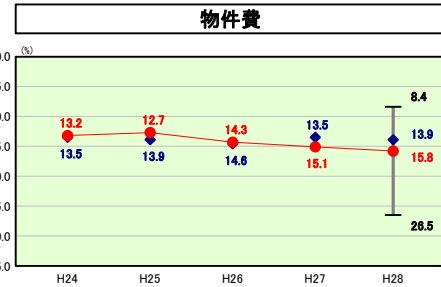
徳島県阿南市

経常収支比率の分析

人口	74,951	人(H29.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	74,607	人(H29.1.1現在)	連結実収赤字比率	-	%
面積	279.25	km ²	実収公債費比率	5.1	%
歳入総額	37,260,428	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	35,635,724	千円	市町村類型	H24 II-1 H25 II-1 H26 II-1	
実収収支	142,546	千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1	
標準財政規模	20,137,232	千円			
地方債現在高	34,694,924	千円			

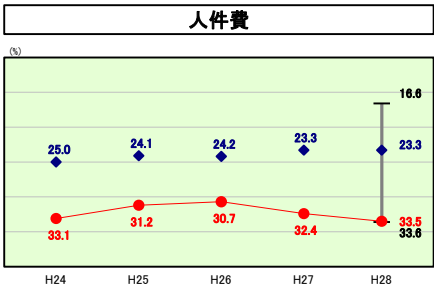


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



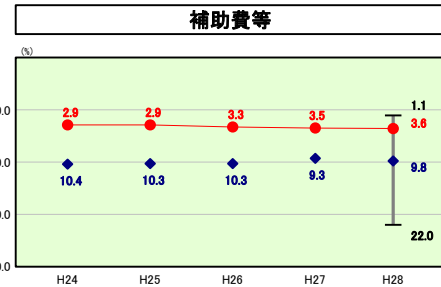
物件費の分析欄

物件費に係る経常収支比率は15.8%と類似団体平均より1.9ポイント上回り、県平均に比べると3.7ポイント上回っている。主な理由として、ごみ収集業務や学校給食業務等を直営で行っていることなどから、臨時職員賃金等が多額となっているほか、公共施設の統廃合が進んでいないことで施設管理に要する物件費が大きい。早急にトップランナー方式で示されている民間委託等を検討し、公共施設等の管理経費の縮減に努める必要がある。



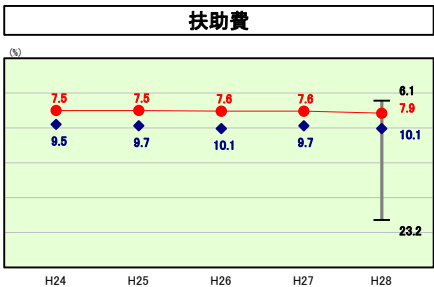
人件費の分析欄

人件費に係る経常収支比率は、定員管理目標を上回るペースで職員数の減員が進んでいるものの、1.1ポイント悪化し、かつ全国・県平均を上回っている。
 市民ニーズの多様化や地方分権に伴う権限移譲の進展等により、業務量の増加が見込まれることから、今後は事務の効率化と簡素化を多面的に検討しながら人件費の抑制に努める必要がある。



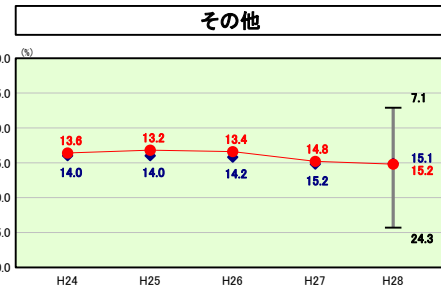
補助費等の分析欄

当市は、旧那賀川町及び旧羽ノ浦町と市町合併し、旧1市2町からの負担金で運営していた一部事務組合(消防・衛生)の業務を承継したため、類似団体平均より6.2ポイント下回っている一方、人件費や物件費の割合が高くなっている。
 市単独補助金等については、各団体の収支状況等を精査した上で決定するほか、団体の統合、再編や補助の終期を設定するなど見直しを行う必要がある。



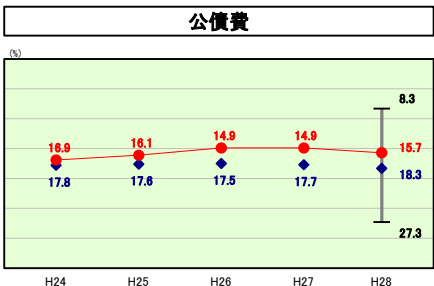
扶助費の分析欄

扶助費に係る経常収支比率は、7.9%と全国、県平均を下回っており、類似団体平均より2.2ポイント下回っているが、安心して子育てができるまちづくりを目指すため18歳までの医療費の無料化を行っていることや、障がい者福祉サービス関連経費、少子高齢化の進展による社会保障関連経費の増加が見込まれることから、各事業における受給資格審査等において、更なる適正化を図る必要がある。



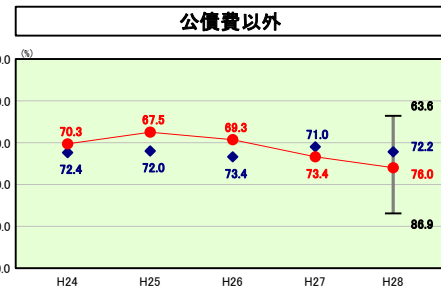
その他の分析欄

その他に係る経常収支比率は、類似団体平均を0.1ポイント上回っており前年度でも0.4ポイント悪化した。主な要因として、歳入において法人市民税等の経常的収入が減少したことであるが、歳出でも繰出金で国民健康保険及び後期高齢者医療特別会計等において、高齢化等を背景に給付額は増加傾向となっているほか、下水道事業等に対する赤字補てん繰出金が増加する傾向にある。
 今後は、独立採算性の原則に鑑み、受益者負担の適正化や基準外繰出金の見直しに努める必要がある。



公債費の分析欄

市債発行事業の厳しい精査を行うとともに、高利残債の利率見直し交渉による利子負担の軽減を図っていることなどから公債費に係る経常収支比率は15.7%と類似団体平均より2.6ポイント下回った。しかし、公債費は約32億円となっており、公債費負担は依然として高い。
 今後は、合併特例債から本債の発行へシフトしていくことや一般財源確保のために臨時財政対策債発行額の増加が見込まれることから、健全化判断比率の悪化に注意を払いながら、慎重な市債発行により堅実な財政運営に努める必要がある。



公債費以外の分析欄

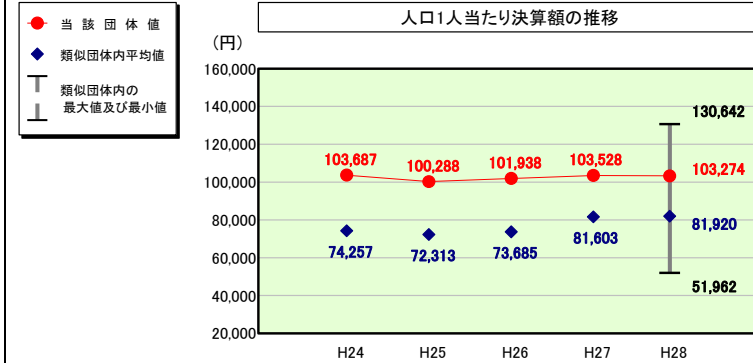
公債費以外の経常収支比率は、類似団体平均より3.8ポイント上回り、前年度と比較すると2.6ポイント悪化した。主な要因として、人件費の経常収支比率で1.1ポイント悪化し、類似団体平均を大きく上回っているほか、物件費で臨時職員賃金や施設ランニングコストなどで0.7ポイント悪化、その他性質において0.4ポイントの悪化が見られた。
 今後は市税の徴収強化等により一般財源の安定的な確保に努める必要があり、特に人件費では、適正管理を徹底するほか、施設管理において、指定管理者制度の導入等による管理コストの軽減に努めることが重要である。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成28年度

徳島県阿南市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



(注) 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

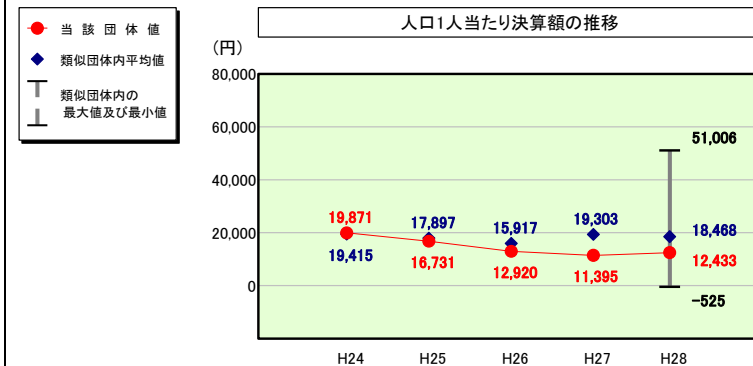
人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	7,001,392	93,413	72,433	29.0
賃金(物件費)	1,061,945	14,169	5,807	144.0
一部事務組合負担金(補助費等)	76,511	1,021	5,465	▲81.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	1,191	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	3	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	233,972	3,122	3,078	1.4
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	85,763	1,144	1,624	▲29.6
▲退職金	▲719,066	▲9,594	▲7,680	24.9
合計	7,740,517	103,274	81,920	26.1

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	10.87	8.21	2.66
ラスパイレズ指数	98.5	98.1	0.4

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

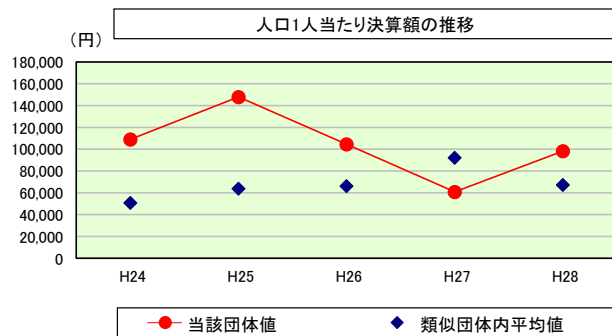


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	3,151,075	42,042	53,781	▲21.8
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	41	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	366,219	4,886	14,373	▲66.0
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	772	10	1,414	▲99.3
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	-	-	886	-
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	2	-
▲特定財源の額	▲119,315	▲1,592	▲4,261	▲62.6
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲2,466,863	▲32,913	▲47,768	▲31.1
合計	931,888	12,433	18,468	▲32.7

※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H24	8,415,742	109,117	98.7	50,880	7.0	91.7
うち単独分	2,726,240	35,348	20.4	26,879	2.4	18.0
H25	11,359,913	147,933	35.6	63,956	25.7	9.9
うち単独分	4,612,861	60,070	69.9	29,239	8.8	61.1
H26	7,965,894	104,513	▲29.4	66,255	3.6	▲33.0
うち単独分	5,463,085	71,676	19.3	31,822	8.8	10.5
H27	4,606,777	60,894	▲41.7	92,247	39.2	▲80.9
うち単独分	3,320,089	43,886	▲38.8	37,204	16.9	▲55.7
H28	7,361,915	98,223	61.3	67,319	▲27.0	88.3
うち単独分	5,956,991	79,478	81.1	38,101	2.4	78.7
過去5年間平均	7,942,048	104,136	24.9	68,131	9.7	15.2
うち単独分	4,415,853	58,092	30.4	32,649	7.9	22.5

(5) 市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

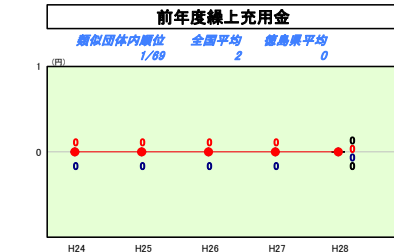
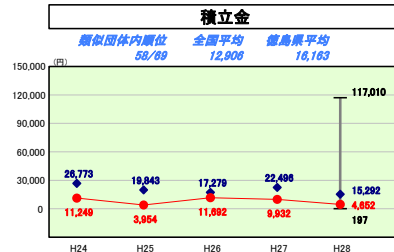
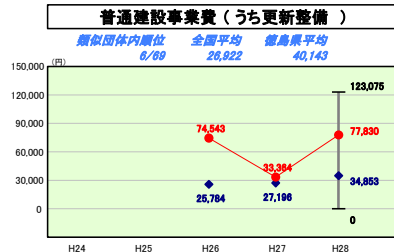
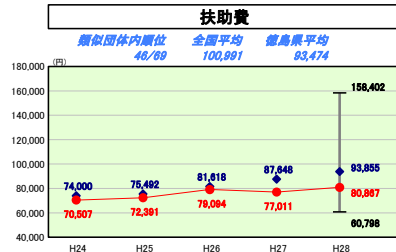
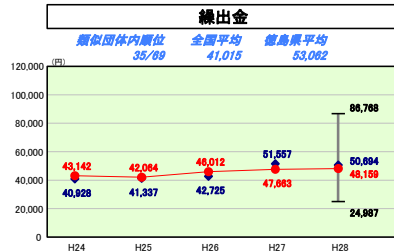
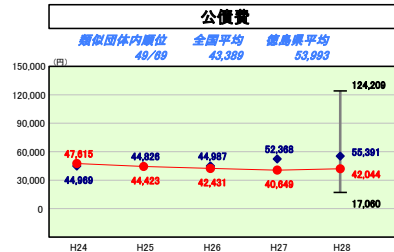
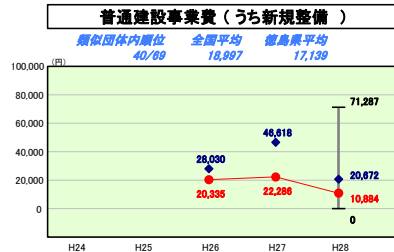
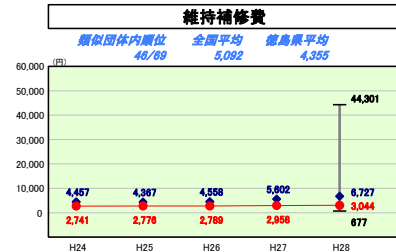
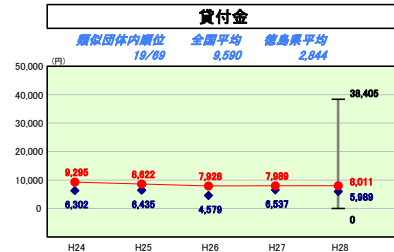
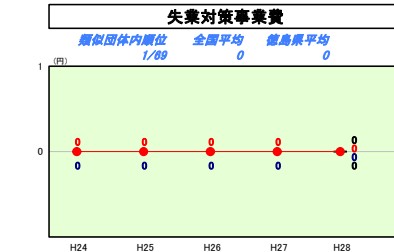
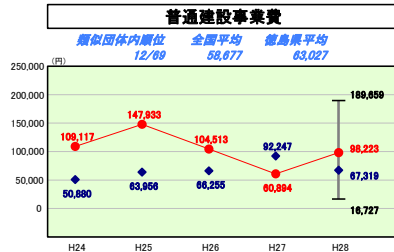
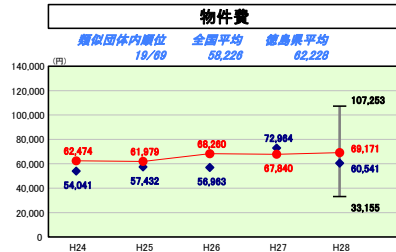
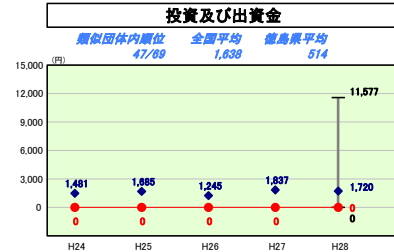
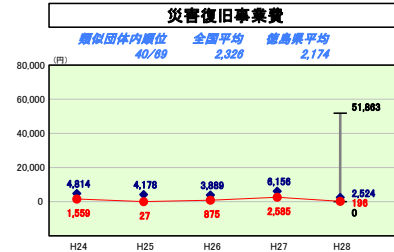
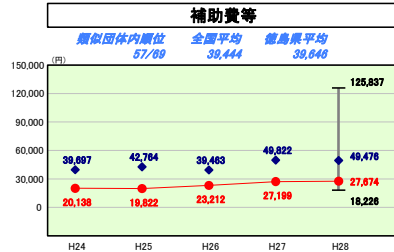
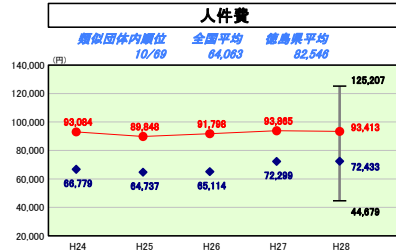
平成28年度

徳島県阿南市

人口	74,951人 (H29.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	74,007人 (H29.1.1現在)	通算実質赤字比率	-%
面積	279.25千㎡	実質公債費比率	5.1%
歳入総額	37,260,428千円	将来負担比率	-%
歳出総額	35,635,724千円	市町村類型	H24 II-1 H25 II-1 H26 II-1
実質収支	142,546千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1
標準財政規模	20,137,232千円		
地方債現在高	34,684,924千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

歳出決算総額に対する市民一人当たりコストは、475,454円となっている。
 大半の性質別歳出については、類似団体の値を下回っている。
 主な構成項目である人件費では、市民一人当たり93,413円と類似団体の値を20,980円上回っている状況であり、依然として高い水準にある。数次の合併を経て、広大な面積を有することから支所や住民センターのほか、公共施設が多く存在しており、行政需要に応じた人員配置を行っているところであるが、高水準であることを踏まえ類似団体との比較・検討が必要と考えられる。
 物件費については、市民一人当たり69,171円と類似団体の値を6,630円上回っており、管理施設数が多数に上ることから考えられる。
 普通建設事業については、市民一人当たり98,223円と類似団体の値を30,904円上回っており、今後も新市まちづくり計画に基づく学校給食センター建設事業等の大型事業の進捗と、資産老朽化の進行による更新が進んでいるため、公共施設等総合管理計画に基づく更新計画が示される予定であることからその更新費用等について、十分な検討を重ねる必要がある。

(6) 市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

平成28年度

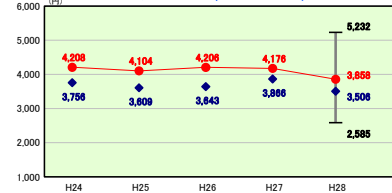
徳島県阿南市

人口	74,951人 (H29.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	74,607人 (H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	279.25km ²	実質公債費比率	5.1%
歳入総額	37,260,428千円	将来負担比率	-%
歳出総額	35,635,724千円	市町村類型	H24 II-1 H25 II-1 H26 II-1
実質収支	142,546千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1
標準財政規模	20,137,232千円		
地方債現在高	34,684,924千円		

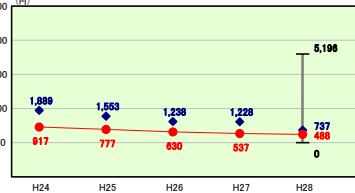
● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
┆ 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

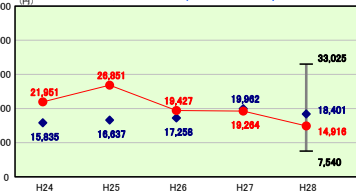
議会費
類似団体内順位 18/89 全国平均 2,704 徳島県平均 4,098



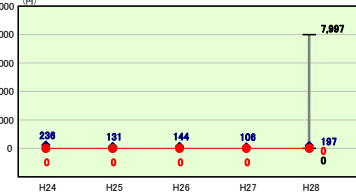
労働費
類似団体内順位 34/89 全国平均 538 徳島県平均 286



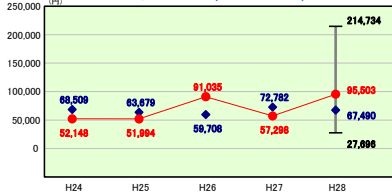
消防費
類似団体内順位 52/89 全国平均 14,428 徳島県平均 18,039



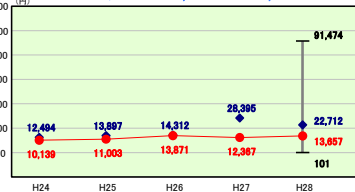
雑支出金
類似団体内順位 10/89 全国平均 999 徳島県平均 729



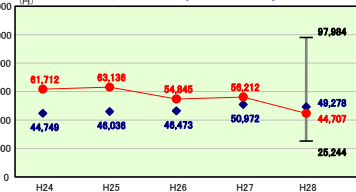
総務費
類似団体内順位 10/89 全国平均 51,482 徳島県平均 70,080



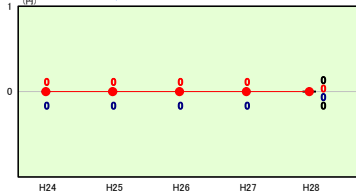
農林水産業費
類似団体内順位 46/89 全国平均 10,814 徳島県平均 15,934



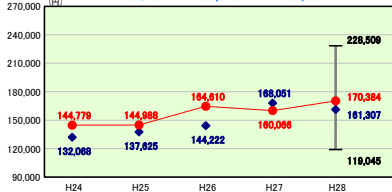
教育費
類似団体内順位 41/89 全国平均 45,262 徳島県平均 44,421



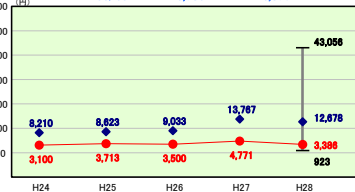
前年度繰上充用金
類似団体内順位 1/89 全国平均 2 徳島県平均 0



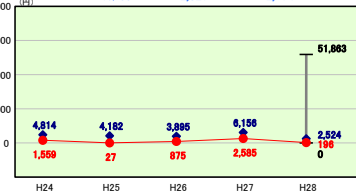
民生費
類似団体内順位 29/89 全国平均 183,808 徳島県平均 189,290



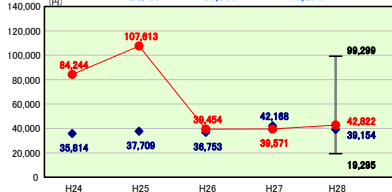
商工費
類似団体内順位 58/89 全国平均 13,786 徳島県平均 6,870



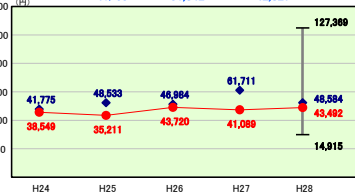
災害復旧費
類似団体内順位 40/89 全国平均 2,327 徳島県平均 2,174



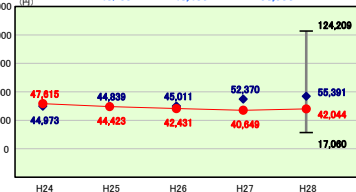
衛生費
類似団体内順位 23/89 全国平均 35,835 徳島県平均 45,290



土木費
類似団体内順位 41/89 全国平均 51,842 徳島県平均 42,827



公債費
類似団体内順位 49/89 全国平均 43,435 徳島県平均 53,893



目的別歳出の分析額

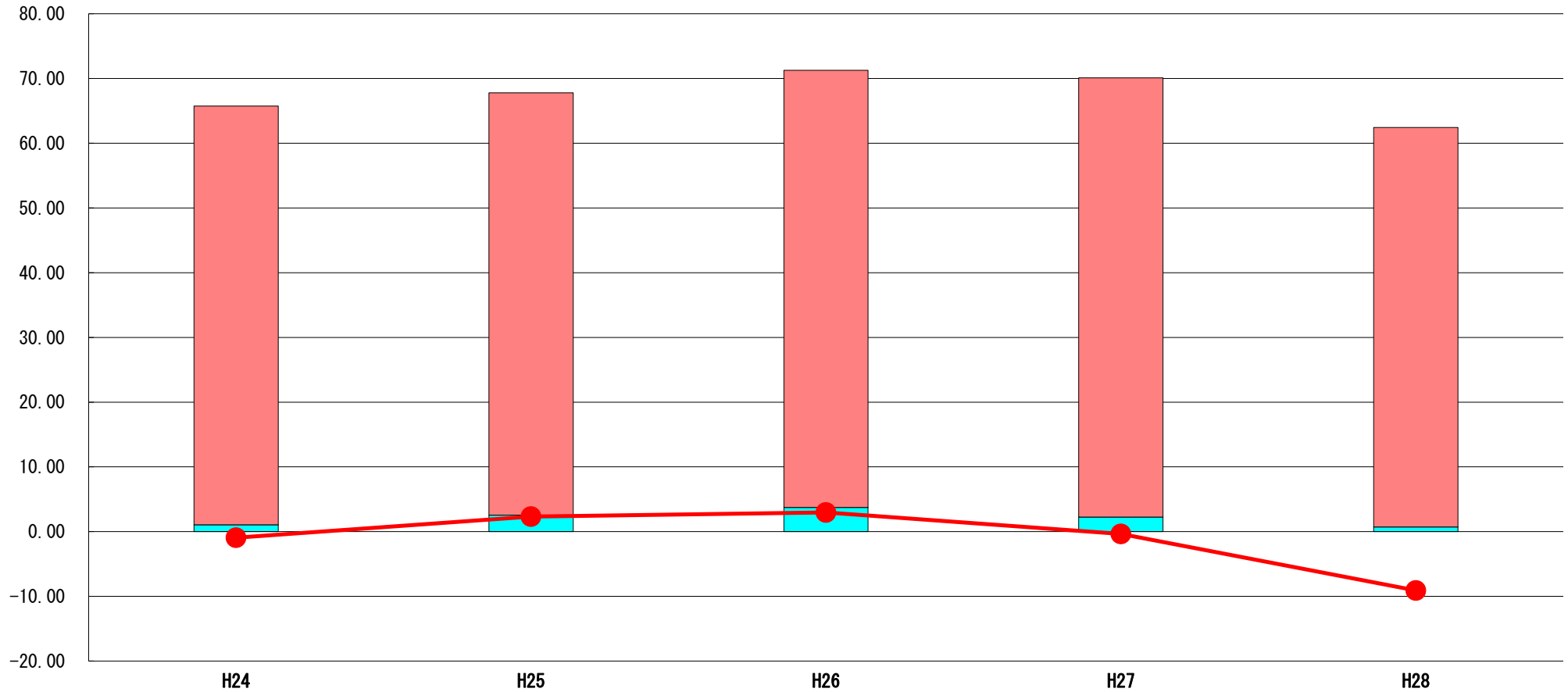
議会費、総務費、民生費及び衛生費の性質別歳出については、類似団体の値を上回った。
 議会費では、市民一人当たり3,858円と類似団体の値を352円上回っている。これは、平成18年3月の合併直後の選挙において定数を28人としているが、類似団体の議員定数を調査・研究し、適正な議員定数としていく必要がある。
 総務費では新庁舎建設事業、民生費ではこどもセンター建設事業、衛生費では健康づくりセンター建設事業と各目的別歳出において、主に大型の普通建設事業の執行が相次いだため、特に総務費では大幅な増加となっている。
 また、民生費では、少子高齢化の進展が続く傾向の中で、今後は各種扶助費等の増加が懸念されることである。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成28年度

徳島県阿南市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H24	H25	H26	H27	H28
 財政調整基金残高		64.68	65.27	67.52	67.85	61.72
 実質収支額		1.06	2.53	3.74	2.25	0.71
 実質単年度収支		▲ 0.95	2.33	2.96	▲ 0.35	▲ 9.09

分析欄

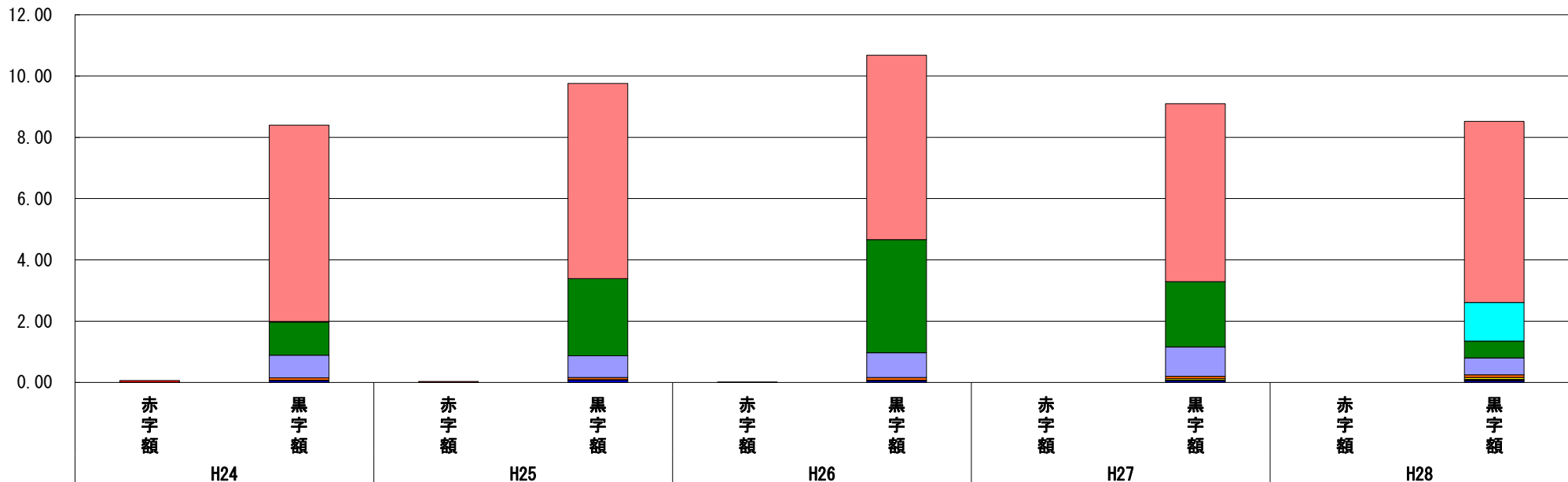
財政調整基金残高は、決算剰余金を中心に適切に積み立てするとともに、国の方針に沿って優先的に取り組むべき事業への活用をはかった結果、約15億円減少の約124億円となった。実質収支額は、法人市民税で中国経済の減速や為替レートの変動の影響を受け、減収となり悪化した。平成28年度も黒字を維持している。実質単年度収支については、市税の減収などから実質収支が悪化し単年度収支で約3億円の赤字となり、実質単年度収支でも阿南医療センター整備事業補助等単独事業の施行により、財政調整基金の取崩しが大幅な増額となり、約18億3千万円の赤字となった。既に合併算定替縮減期間に入っている交付税収入の減少や景気の動向に影響を受ける法人市民税等市税収入の先行きに不透明感があることを踏まえ、一般財源の更

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成28年度

徳島県阿南市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H24	H25	H26	H27	H28
阿南市水道事業会計		6.41	6.37	6.02	5.81	5.91
国民健康保険事業会計		0.02	0.00	0.00	0.00	1.26
一般会計		1.08	2.52	3.69	2.13	0.55
介護保険事業会計		0.74	0.71	0.81	0.96	0.55
後期高齢者医療会計		0.08	0.07	0.09	0.08	0.09
春日野地域下水道事業会計		0.00	0.00	0.00	0.05	0.06
西春日野生活排水処理事業会計		-	-	-	-	0.03
伊島地区生活排水処理事業会計		0.01	0.02	0.02	0.02	0.02
その他会計（赤字）		▲ 0.06	▲ 0.03	▲ 0.01	▲ 0.00	-
その他会計（黒字）		0.06	0.07	0.05	0.05	0.05

分析欄

当市の一般会計及び公営企業会計等の実質収支は、平成28年度決算より住宅新築資金等貸付事業特別会計が黒字になったことにより、すべての会計が、黒字もしくは、収支0の決算となり、連結実質赤字比率は生じていない。

黒字決算となった住宅新築資金等貸付事業特別会計も、多額の未回収債権があることから、引き続き債権回収に努める必要がある。

その他の会計についても独立採算制の原則に鑑み、十分な財源の確保に努めるとともに事業歳出予算を精査することで財政の健全性を維持する。

また、一般会計においても今後は、法人市民税をはじめとする市税収入の見通しが不透明であるほか、普通交付税の合併算定替縮減期間に入ったことなどから、一般財源の確保が一層厳しくなることが予想されるため、堅実な財政運営をすすめることが重要である。

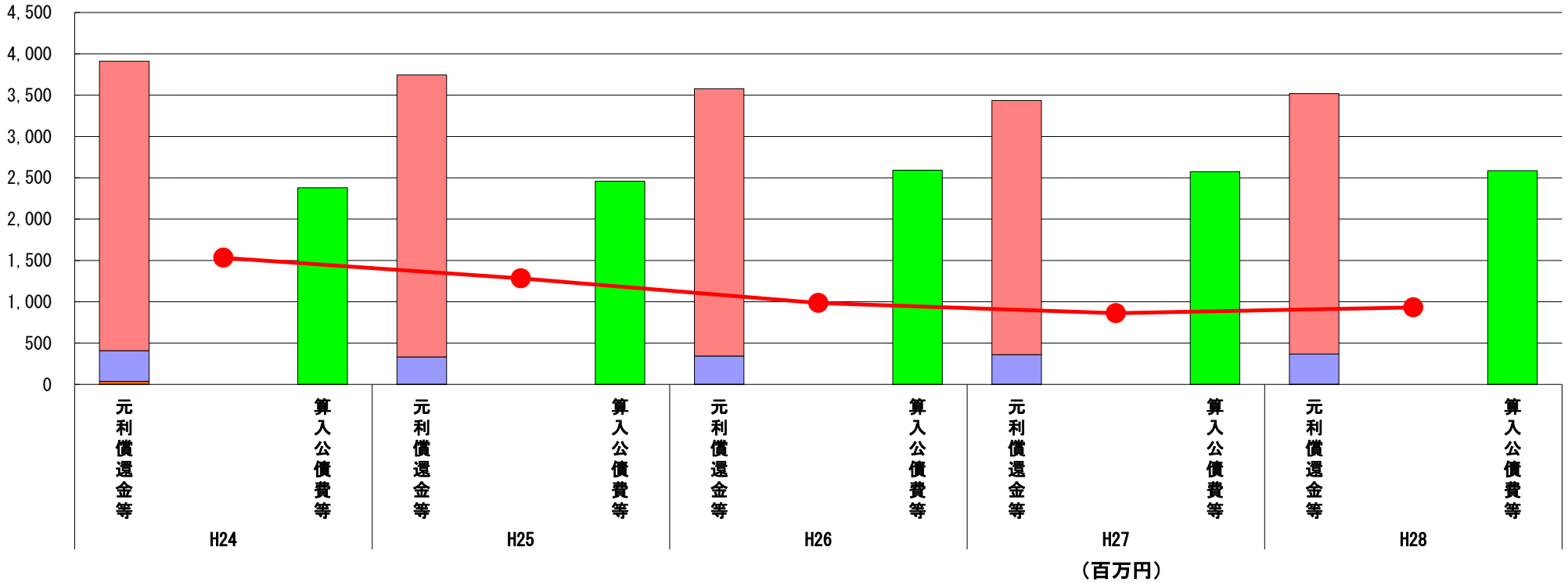
※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成28年度

徳島県阿南市

(百万円)



分子の構造		年度	H24	H25	H26	H27	H28
元利償還金等 (A)	元利償還金		3,502	3,411	3,234	3,075	3,151
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		373	332	343	359	366
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		36	1	1	1	1
	債務負担行為に基づく支出額		-	-	-	-	-
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		2,379	2,460	2,592	2,573	2,586
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		1,532	1,284	986	862	932

分析欄

実質公債費比率については、平成19年度以降減少傾向にあり、平成28年度は5.1%と類似団体平均を3.1%下回っている。主要要因として、既発債の定期償還に加え、高利残債の利率見直し交渉を積極的に行い、公債費負担を抑えとともに学校給食センター建設事業等の大型事業が進行中ではあるが、交付税算入率の高い合併特例債を計画的に活用してきた結果であると分析している。

今後は、合併特例債の発行可能額が枯渇することから、合併特例債の基金造成枠を活用し、新市まちづくり計画に掲げる事業に充てていくこととしているが、本債の活用も増加していくと想定しており、算入公債費等が減少するため比率の悪化が懸念される。そのため慎重な財政計画の下、適量、適切な事業実施により各比率の改善に努める必要がある。

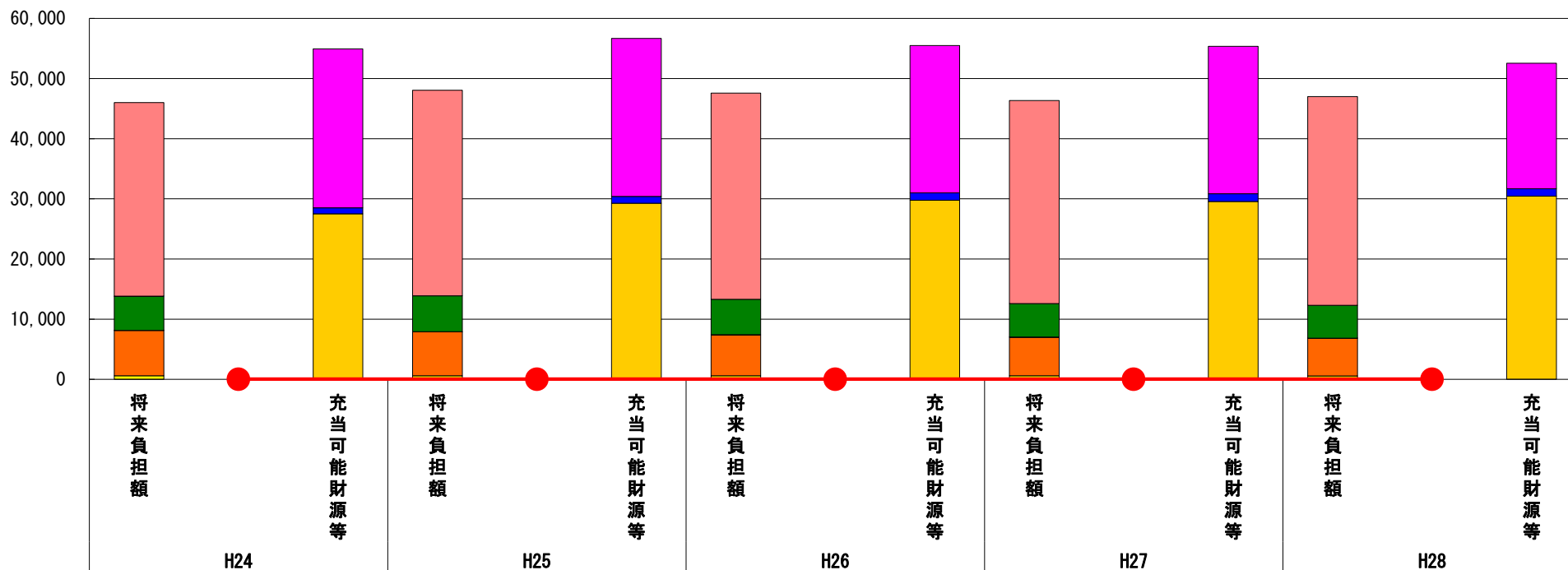
※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成28年度

徳島県阿南市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H24	H25	H26	H27	H28
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		32,186	34,181	34,280	33,766	34,695
	債務負担行為に基づく支出予定額		59	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		5,642	5,967	5,887	5,573	5,480
	組合等負担等見込額		6	5	5	4	3
	退職手当負担見込額		7,542	7,325	6,828	6,435	6,259
	設立法人等の負債額等負担見込額		581	579	578	577	575
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		26,412	26,270	24,495	24,525	20,863
	充当可能特定歳入		1,015	1,106	1,229	1,291	1,234
	基準財政需要額算入見込額		27,509	29,288	29,769	29,552	30,465
(A) - (B)	将来負担比率の分子		▲ 8,920	▲ 8,606	▲ 7,917	▲ 9,013	▲ 5,550

分析欄

将来負担額については、庁舎建設事業等大型事業の地方債発行により、地方債残高は増加したが、その他の項目については減少している。

将来負担額に対し、庁舎建設基金、財政調整基金等の大幅な取崩しにより、約37億円減少したものの、約209億円（平成28年度末）の充当可能基金を保有していることなどから、将来負担比率は生じていない。

主な将来負担の要素である市債残高については、学校給食センター建設事業等の大型事業が進行中で当分の間は市債残高は増加することが予想されるが、交付税措置の高い合併特例債の優先的な利活用等により実質的な将来負担は抑えられている。

また、退職手当負担（見込）額についても団塊世代の大量退職が続く中、適正な定員管理により新規採用を最小限に留めていることなどから抑制されているが、今後は市税の減収や、普通交付税の段階的縮減期間に入っていることなどから、財源不足を補い収支の均衡を保つため、財政調整基金等からの繰入れが増加することも想定され、より一層の事務事業の効率化、適正化を図り、歳出抑制に努めるとともに慎重な市債発行と基金運用に努めることが重要である。

※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(11)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

平成28年度

徳島県阿南市

人口	74,951	人(H29.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	74,607	人(H29.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	279.25	km ²	実質公債費比率	5.1	%
歳入総額	37,260,428	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	35,635,724	千円	市町村類型	H24 II-1 H25 II-1 H26 II-1	
実質収支	142,546	千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1	
標準財政規模	20,137,232	千円			
地方債現在高	34,694,924	千円			

● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

- ※ 有形固定資産減価償却率は平成30年1月1日時点で固定資産台帳を整備済みの団体について、数値を記載している。
- ※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
- ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載。
- ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。

有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却率 [-]

類似団体内順位 -/-

全国平均 57.8 徳島県平均 59.5

有形固定資産減価償却率の分析欄

有形固定資産減価償却率は類似団体、全国平均及び県平均を下回っているが、多数の公共施設が耐用年数を迎える状況を進め、平成29年3月に、平成29年度から平成38年度までの10年間を計画期間とする「阿南市公共施設等総合管理計画」を策定し、健全で持続可能な行政運営を行っていくため、計画的な施設の更新・維持に努めることとしている。

債務償還可能年数

債務償還可能年数 [-]

算出式精査中のため、出力対象外

債務償還可能年数の分析欄

将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

将来負担比率と有形固定資産減価償却率の推移

分析欄

将来負担比率及び有形固定資産減価償却率は類似団体と比べて低い数値となっているものの、耐用年数を迎える多数の施設の維持管理費の増大が見込まれることや、老朽化した施設の改修・更新等により充当可能基金残高が減少することも想定されることから、平成29年3月に策定した「阿南市公共施設等総合管理計画」に沿って総合的かつ効率的な施設の維持管理、長寿命化及び統合等に取り組んでいく。

(参考)

		H24	H25	H26	H27	H28
当該団体値	将来負担比率	/	/	/	-	/
	有形固定資産減価償却率	/	/	/	48.6	/
類似団体内平均値	将来負担比率	/	/	/	39.0	/
	有形固定資産減価償却率	/	/	/	55.4	/

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析

将来負担比率と実質公債費比率の推移

分析欄

将来負担比率及び実質公債費比率は類似団体内平均より低い水準を保っており、数値も減少傾向ではあるが、将来への負担を軽減するため、実施事業の精査を行い、市債発行に当たっては交付税措置されるものを優先するなど、引き続き適切な財政運営に努めていく。

(参考)

		H24	H25	H26	H27	H28
当該団体値	将来負担比率	-	-	-	-	-
	実質公債費比率	8.7	7.9	7.0	5.7	5.1
類似団体内平均値	将来負担比率	58.2	50.3	45.9	39.0	32.5
	実質公債費比率	10.3	9.6	8.8	9.0	8.2

(12)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

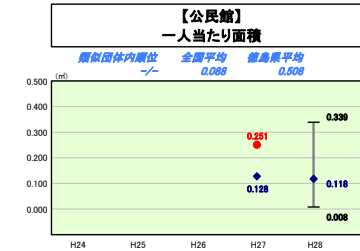
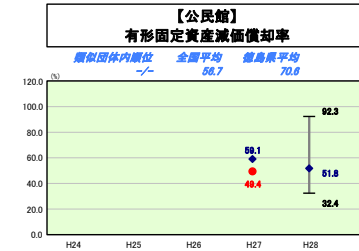
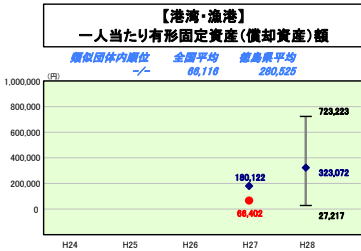
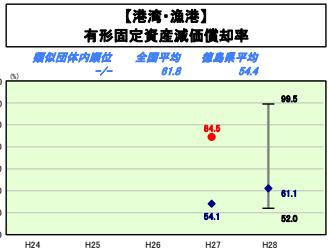
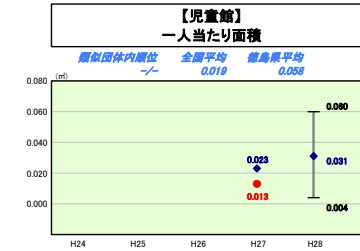
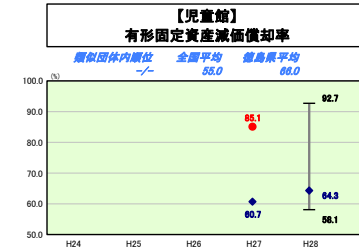
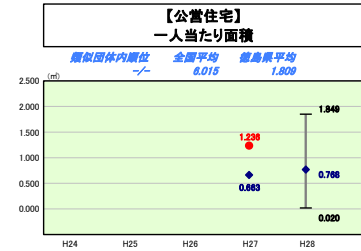
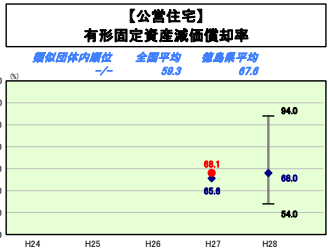
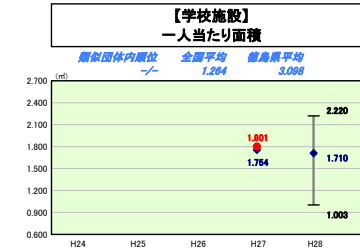
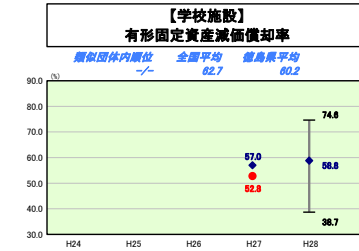
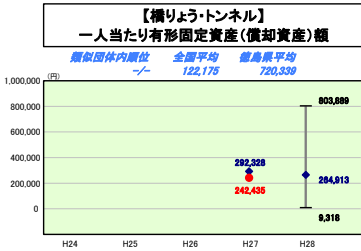
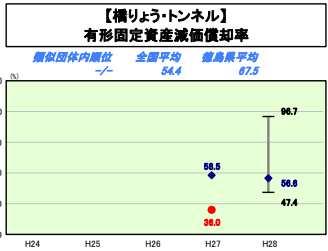
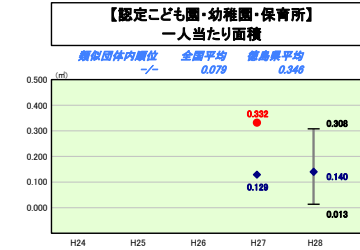
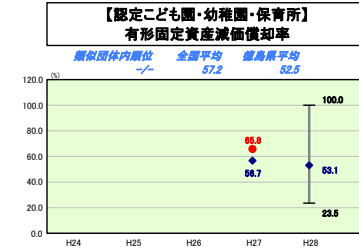
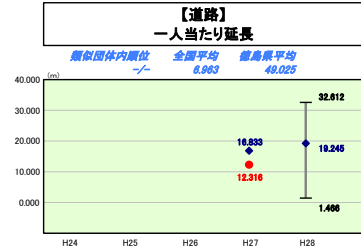
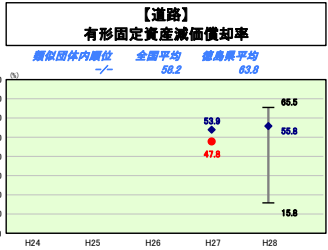
平成28年度

徳島県阿南市

人口	74,951	人(28.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	74,807	人(28.1.1現在)	通算実赤字比率	-	%
面積	279.25	km ²	実質公債費比率	5.1	%
歳入総額	37,280,428	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	36,635,724	千円	市町村類型	H24 II-1 H25 II-1 H26 II-1	
実質収支	142,548	千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1	
標準財政規模	20,137,232	千円			
地方債残高	34,694,924	千円			



※平成30年1月1日時点で固定資産台帳を整備済みの団体について、数値を記載している。
 ※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成28年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



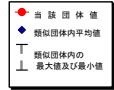
施設情報の分析
 本市においては、認定こども園・幼稚園・保育所、児童館、公営住宅、港湾・漁港について、有形固定資産減価償却率が類似団体内平均値、全国平均及び県平均より高い水準にある。また、認定こども園・幼稚園・保育所、学校施設、公民館、公営住宅については、一人当たり面積が類似団体内平均値を上回っている。今後、「阿南市公共施設等総合管理計画」に基づき、長期的な視点で更新、統合、長寿命化などを適切に進めていく。

(12)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

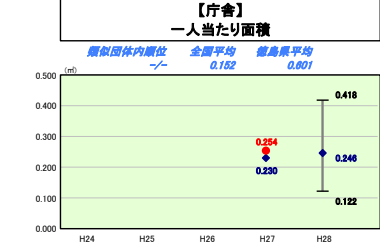
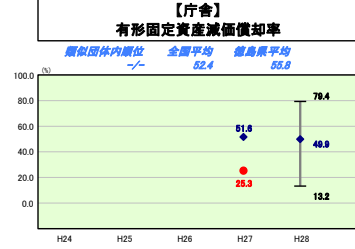
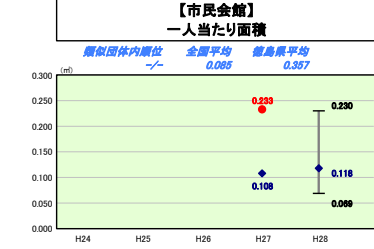
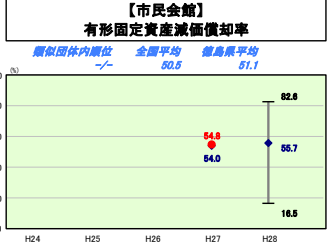
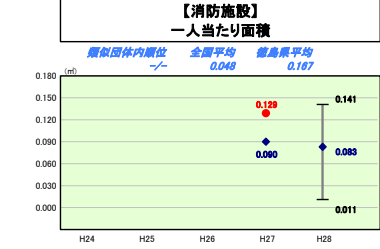
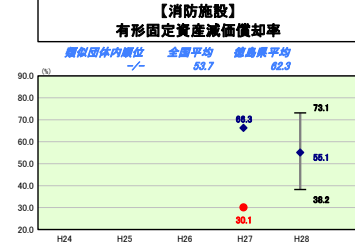
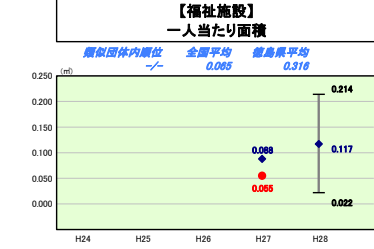
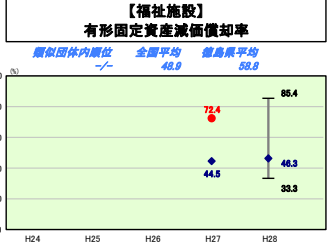
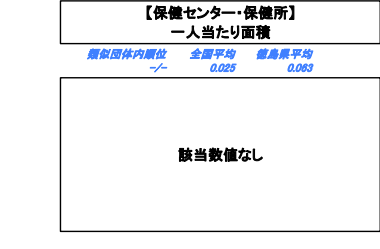
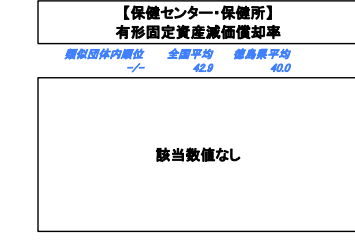
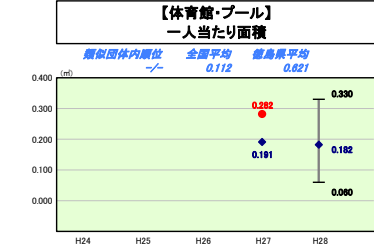
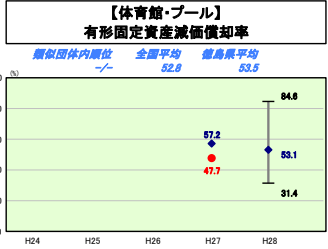
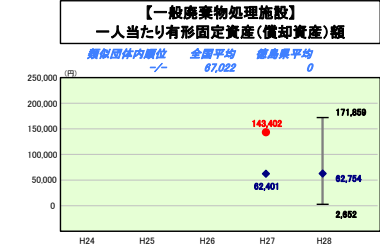
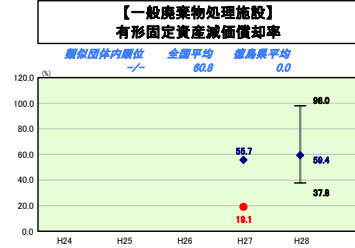
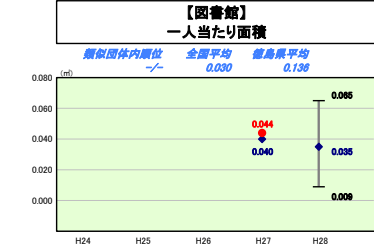
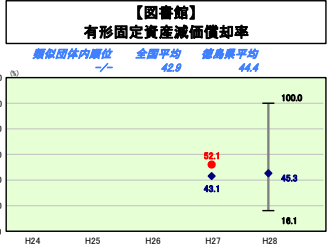
平成28年度

徳島県阿南市

人口	74,861	人(H28.1.1現在)	実収赤字比率	-	%
うち日本人	74,807	人(H28.1.1現在)	通帳実収赤字比率	-	%
面積	279.25	km ²	実収公債費比率	5.1	%
歳入総額	37,280,428	千円	将来負担比率	-	%
歳出総額	36,635,724	千円	市町村類型	H24 II-1 H25 II-1 H26 II-1	
実収税支	142,548	千円	(年度毎)	H27 II-1 H28 II-1	
標準財政規模	20,137,232	千円			
地方債残高	34,694,924	千円			



※平成30年1月1日時点で固定資産台帳を整備済みの団体について、数値を記載している。
 ※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成28年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、平成28年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



施設情報の分析圖

本市においては、比較的新しい年代に建設された一般廃棄物処理施設、消防施設、庁舎は有形固定資産減価償却率が低い水準にあるが、図書館、福祉施設、市民会館については、類似団体内平均値、全国平均及び県平均のいずれと比較しても高い水準にある。また、消防施設、庁舎、図書館、体育館・プール、市民会館については、一人当たり面積が県平均を下回っているもの、いずれも類似団体内平均より高い水準にある。
 老朽化した施設については予防的な修繕や改修による施設機能の維持に努めているが、今後は、人口減少等による利用需要の状況考慮に入れ、規模の最適化などの検討を進めている。